

イルカウォッチングとドルフィンスイム

小笠原諸島、その中でも特に賀島、父島、母島の沖合では、様々な種類のイルカを見ることができる。最もよく見られるのが、ミナミハンドウイルカとハシナギイルカの 2 種類である。ミナミハンドウイルカは吻（ふん）が長く、腹がまだら模様で、体長は通常 2.5 メートル程。ハシナギイルカの体長はそれよりも少し小型の約 2 メートルで、背ビレと胸ビレに黒みが掛っている。また、ハシナギイルカは宙返りやきりもみジャンプをするので見分けやすい。昼間は湾内や岸近くで静かに泳いでいることが多いが、朝夕は行動が活発で、見事な曲芸を見せてくれる。

小笠原では 25 年以上にわたってイルカウォッチングのツアーが行われている。海況やイルカの気分、近くにいる他の船や人の多さ次第では、イルカと一緒に泳げる場合もある。幼いイルカほど人間とのふれ合いに積極的な傾向がある。

イルカは人間の存在や人間とのふれ合いに慣れているといっても、自然に棲む野生動物であることは変わらない。種類によって人間への懐き具合は異なり、他の動物と同様、どの個体もふたつと同じものはおらず、性格も異なる。

小笠原のツアー事業者はイルカを敬い、小笠原ホエールウォッチング協会監修のもと小笠原村観光協会が定めたルールを忠実に守っている。このルールではイルカのひとつの群れにアプローチできるボートの数、および各ボートがひとつの群れにアプローチできる回数を制限している。

イルカウォッチングやイルカとの遊泳には、夏が最適な季節である。ツアーには 2～3 時間のものから終日のものまであり、終日ツアーには、近くのビーチでゆっくり昼食を取りシュノーケリングを楽しむ時間も含まれている。